

プログラムを構成する授業科目について

①具体的な修了要件

②教育プログラムの修了要件

プログラムを構成する科目である「情報処理入門Ⅰ」または「**数理・データサイエンス・AI**」の単位を取得し、さらに授業実施後に行う理解度確認テストにおいて60%以上の正答を得ること。

③現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に

授業科目	単位数	必修	1-1	1-6	授業科目	単位数	必修	1-1	1-6
情報処理入門Ⅰ	2	⊖	○	○					
数理・データサイエンス・AI	1		全学開講	○ ○					

④「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るものの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	1-2	1-3	授業科目	単位数	必修	1-2	1-3
	2	⊖	○	○					
	1		○	○					

⑤「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5
情報処理入門Ⅰ	2	○	全学開講	○	○						
数理・データサイエンス・AI	1		全学開講	○	○						

⑥「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2	授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2
情報処理入門Ⅰ	2	○	全学開講	○	○						
数理・データサイエンス・AI	1		全学開講	○	○						

⑦「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3
情報処理入門Ⅰ	2	○	全学開講	○	○	○							
数理・データサイエンス・AI	1		全学開講	○	○	○							

⑧選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑨プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 社会で活用されている大量のデータ(ビッグデータ)処理、AIを組み合わせることで、様々な新たな研究やビジネスが可能となり、計算機の進化など技術のブレークスルーにより大量のデータを瞬時に処理できるようになった。サイバー空間と物理空間を高度に融合、経済発展と社会的課題の解決、人間中心の社会(Society5.0)へと大きく変化していることを考察する。一方で、動画のフェイクニュースが作られるなど新たな問題も生じていることをとりあげる。(「情報処理入門Ⅰ」:12回目 「数理・データサイエンス・AI」:1回目)
	1-6 AIとビッグデータとの関連を学ぶ(特化型AIと汎用AIの違い、AIと機械学習と深層学習の用語の意味と発展の経緯)。機械学習の教師なし学習、教師あり学習、強化学習の違いを具体的な事例を通して学ぶ。AIを活用した事例として、星空の自動解析、ゲームの自動プレイ、迷路最短経路探索ロボットなどを取り上げ、AIの最新動向とその活用事例を学ぶ。(「情報処理入門Ⅰ」:13回目 「数理・データサイエンス・AI」:3回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 データサイエンスとは何か。データの収集や分析、古い時代でもデータの有効活用が行われていたが、現在との違いについて解説。データには、調査データ、観測データ、実験データなどがあり、国勢調査のデータや気象データなど公開され自由に使えるものも多い。構造化データと非構造化データとの違い、1次データと2次データとメタデータ。オープンデータには具体的にどのようなものがあるか、そしてその活用事例を紹介。データサイエンティストの役割りについて。(「情報処理入門Ⅰ」:12回目 「数理・データサイエンス・AI」:2回目)
	1-3 データやAIの活用により、自動運転、文書の自動生成などが行われている。具体的な事例として、研究分野では、手書き古文書の解読、ビジネスでは、チャットボットによる業務の効率化などを紹介。自動制御、IoTとロボット、スマート農業(アスパラの自動収穫など)の事例を紹介。データサイエンスとAIとの関係について学ぶ。(「情報処理入門Ⅰ」:12回目 「数理・データサイエンス・AI」:2回目)

(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	データの1次分析(基礎統計量、データの可視化、データの確認など)、データの可視化(ヒストグラム、地図上の可視化、時系列)、非構造データの処理(言語処理、画像処理と認識技術)について学ぶ。(「情報処理入門 I」:13回目 「数理・データサイエンス・AI」:3回目)
	1-5	データ利活用のための技術(予測、グルーピング、シミュレーション、データ同化)について、具体的な事例(喫茶店の売り上げ分析、自動運転のシミュレーション、地球シミュレーションなど)を紹介しながら学ぶ。(「情報処理入門 I」:13回目 「数理・データサイエンス・AI」:3回目)
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	データ・AIを扱う上での留意事項(ELSI(科学・技術に関する倫理的・法的・社会的な合意)、研究倫理、法整備など)を学ぶ。データの倫理として、データの捏造、改ざん、剽窃、盗用をそれぞれについて具体的な事例(高温超伝導事件、品質検査データの改ざん)を通じて学ぶ。個人レベルでのデータの扱いの問題(個人情報の漏洩、プライバシーの侵害など)を学ぶ。(「情報処理入門 I」:2回目、3回目、9回目、15回目 「数理・データサイエンス・AI」:7回目)
	3-2	情報セキュリティの機密性、完全性、可用性について学ぶ。セキュリティ事故について、個人情報等の漏洩、プライバシーの侵害など、実例を通して学ぶ。統計的差別、データバイアス、アルゴリズムバイアスなどデータの統計処理を行う際に注意すべきことや、忘れられる権利、説明に基づく同意、オプトイン、オプトアウト、GDPR、データサイエンスやAIの責任問題について、事例を紹介しながら、どうあるべきかを考える。(「情報処理入門 I」:2回目、3回目、9回目、15回目 「数理・データサイエンス・AI」:7回目)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	データの種類(量的変数と質的変数)、具体的なデータの例をもとに、度数分布、ヒストグラム、平均、中央値、最頻値など代表値の違いについて学ぶ。データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)について学ぶ。分割表、クロス集計表、誤差の扱い、散布図と相関係数、母集団と標本抽出の方法、統計情報の正しい理解(誇張表現に騙されない)を学ぶ。(「情報処理入門 I」:14回目 「数理・データサイエンス・AI」:4回目、5回目、6回目)
	2-2	データのグラフ化として、折れ線グラフ、散布図を事例を通して学ぶ。データの比較について、条件をそろえた比較、A/Bテストについて学ぶ。不適切なグラフ表現として、視覚的な加工を行った円グラフの具体的な事例を紹介しながら学ぶ。(「情報処理入門 I」:14回目 「数理・データサイエンス・AI」:4回目、5回目、6回目)
	2-3	データに対する操作として、和、平均の求め方、並び替え、ランキングについて学ぶ。csv形式のデータを表計算ソフトで読み込む方法を学ぶ。(「情報処理入門 I」:14回目 「数理・データサイエンス・AI」:4回目、5回目、6回目)

⑩プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- ・なぜ、数理・データサイエンス・AIを学ぶことが重要なのかを理解する
- ・ビッグデータやAIが社会でどのように活用され新たな価値を生んでいるのかを理解する
- ・AIの得意なところ、苦手なところを理解し、人間中心の適切な判断が出来ることを理解する
- ・社会にあるデータや課題の事例を通して、データやAIの活用でどのような解決が図れるかを予測できる

⑪プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/education/aidatascience/aidatascience.html>

シラバス参照

科目ナンバリングコード	全学教育がイト クラス一覧参照
開設科目名	情報処理入門 I
講義コード	01350XX
担当教員	
教員所属	全学教育がイト クラス一覧参照
開講期・曜日・時限・教室	
授業方法	複合
授業で使用する言語	日本語
対象学生	全学教育がイト クラス一覧参照
週時間	2
単位数	2

授業概要	<p>高校で学習してきた普通教科「社会と情報」の内容を前提に、ICTの利用が当然となっている現代社会で活躍するための知識インフラとして情報、コミュニケーション、通信プロトコル、インターネット、情報システム、セキュリティ、データサイエンス、AIに関して体系的に学ぶ。我々はコミュニケーションによって情報伝達を行っているが、インターネットによってその情報伝達は飛躍的に広がった。その伝達手順である通信プロトコルを理解し、様々な種類の情報伝達を担う情報システムを学ぶ。これらサイバー空間におけるコミュニケーションで最も大事なセキュリティについて詳細な事例をもとに詳しく学習する。授業の到達目標は、さまざまな情報システムやデータやAIを安全かつ有効に使う方法を理解することである。</p>																																								
学習到達目標	<p>まず始めに情報倫理と情報セキュリティの考え方を身につけた後、通信プロトコルとインターネット、知的所有権、情報機器管理について理解する。次に企業等で用いられる、あるいはインフラとして広く使われる情報システムについて学び、後半に数理、データサイエンス、AIについて学ぶ。毎回の授業の前に予めWebで予習を行い、授業後にはワードやパワーポイントをを用いてレジュメを作成し、授業担当教員にメールの添付ファイルとして送ることを義務付ける。</p>																																								
キーワード	<p>情報倫理、情報セキュリティ、ファイルの階層構造と操作、インターネット、電子メール、文書作成、Web活用、表計算、プレゼンテーション、数理、データサイエンス、AI</p>																																								
授業計画	<p>授業計画 第1回 ガイダンス、注意事項 第2回 情報倫理とセキュリティその1 第3回 情報倫理とセキュリティその2 第4回 情報とコミュニケーションとネットワーク 第5回 通信プロトコル 第6回 情報ネットワークの仕組み 第7回 情報システム 第8回 企業と情報システム 第9回 情報セキュリティ 第10回 情報社会とコミュニケーション 第11回 情報社会と法律・危機管理 第12回 社会で活用されているデータ 第13回 AI活用のための技術と現状 第14回 データリテラシー 第15回 データ・AI活用における留意事項</p> <p>予習：講義資料の読解 復習：教科書の該当箇所の読解とPCの操作</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象学部</th> <th>クラス</th> <th>教員</th> <th>曜時限</th> <th>教室</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理学部</td> <td>(A)</td> <td>竹中</td> <td>火7・8</td> <td>G201</td> </tr> <tr> <td>理学部</td> <td>(B)</td> <td>竹中</td> <td>水7・8</td> <td>G201</td> </tr> <tr> <td>文学部</td> <td>(C)</td> <td>新出</td> <td>水1・2</td> <td>G101</td> </tr> <tr> <td>文学部</td> <td>(D)</td> <td>嶋</td> <td>木7・8</td> <td>G101</td> </tr> <tr> <td>生活環境学部</td> <td>(E)</td> <td>竹中</td> <td>火5・6</td> <td>G201</td> </tr> <tr> <td>生活環境学部</td> <td>(F)</td> <td>高田</td> <td>金5・6</td> <td>S235</td> </tr> <tr> <td>工学部</td> <td>(B)または(C)または(D)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>なるべく対象学部のクラスに参加してください。 他のクラスで履修することもできますが、人数制限が生じる場合には、対象学部の学生を優先します。</p> <p>第1回目は、学術情報センターから学内ネットワークの使い方に関する説明があるので、履修しない学生も含め全ての新生が入講する必要があります。</p> <p>本授業を履修し、授業終了後に行う、数理・データサイエンス・AI教育プログラムの理解度確認テストで60点以上を取得、かつ本授業の単位を取得した者には、『数理・データサイエンス・AI教育プログラム修了証書』を授与する。</p>	対象学部	クラス	教員	曜時限	教室	理学部	(A)	竹中	火7・8	G201	理学部	(B)	竹中	水7・8	G201	文学部	(C)	新出	水1・2	G101	文学部	(D)	嶋	木7・8	G101	生活環境学部	(E)	竹中	火5・6	G201	生活環境学部	(F)	高田	金5・6	S235	工学部	(B)または(C)または(D)			
対象学部	クラス	教員	曜時限	教室																																					
理学部	(A)	竹中	火7・8	G201																																					
理学部	(B)	竹中	水7・8	G201																																					
文学部	(C)	新出	水1・2	G101																																					
文学部	(D)	嶋	木7・8	G101																																					
生活環境学部	(E)	竹中	火5・6	G201																																					
生活環境学部	(F)	高田	金5・6	S235																																					
工学部	(B)または(C)または(D)																																								
教科書																																									

参考文献	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	1.	『情報と社会』	駒谷昇一	オーム社		4274133109
参考書	No	書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN
	1.	『一般情報教育』	情報処理学会	オーム社	2019年	4274225956
成績評価基準	S (90点以上)	A (80点以上90点未満)	B (70点以上80点未満)	C (60点以上70点未満)	F (60点未満)	
	情報処理の基礎知識の理解について、十分に達成し、傑出した水準に達している。	情報処理の基礎知識の理解度が優れている。	情報処理の基礎知識の理解度が良好である。	情報処理の最低限の基礎知識を理解している。	情報処理の最低限の基礎知識を理解していないので単位が認定されない。	
成績評価の方法	レポート、授業への参加度、小テストを総合して判定する。					
成績評価割合(%)	定期試験(期末試験)	授業内試験等	宿題・授業外レポート	授業態度・授業への参加度	受講者の発表(プレゼン)	教員独自項目※
	0	50	30	20	0	
※成績評価割合の教員独自項目						
実務経験のある教員等による授業科目						
備考	授業方式:原則対面で実施するが、教室の定員を超える場合にはオンラインまたはハイブリッドで実施する					

シラバス参照

科目ナンバリングコード	0123017E3
開設科目名	数理・データサイエンス・AI
講義コード	0146740
担当教員	瀧本 栄二
教員所属	情報基盤センター
開講期・曜日・時限・教室	後期集中 その他 その他 G201
授業方法	講義
授業で使用する言語	日本語
対象学生	3年次以上
週時間	1
単位数	1

授業概要	<p>「数理・データサイエンス・AI」技術は、今や文理を問わず求められる知識である。本講義では、現代社会において「数理・データサイエンス・AI」が我々の生活に密着した幅広い分野の問題解決に利用されつつある現状を学ぶとともに、実際にデータを利活用する基本的な技術、および現場での活用事例を通してデータ・AI利活用に関する知識を習得する。また、データには個人情報等、扱いに留意すべき点があり、データの扱いと保護に関する留意事項についても学ぶ。</p> <p>本講義は文科省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」に該当する科目である。全講義が終了後は、受講生各自に理解度確認テストを受講してもらい、合格者には当該教育プログラムの修了証を授与する。</p>					
学習到達目標	<p>本講義では、以下の4点を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「数理・データサイエンス・AI」技術について、社会での利活用の現状と実践を理解・把握し、正しく説明できる。 2. データ・AIを利活用するための基本知識を備え、実データを正しく理解し扱うことができる。 3. データの扱うための留意事項を理解し、考慮した扱いができる。 4. 理解度確認テストに合格できる。 					
キーワード	情報社会、数理、データサイエンス、AI					
授業計画	<p>授業計画</p> <p>第1回 社会の変化とデータ 第2回 データ・AIの活用領域と利活用の現場 第3回 データ・AI利活用のための技術と最新動向 第4回 データリテラシー1(データを読む) 第5回 データリテラシー2(データを説明する) 第6回 データリテラシー3(データを扱う) 第7回 データ・AI利活用における留意事項 第8回 最終講義テスト</p> <p>本講義は2回生以上の全学部生を対象としている。本講義の単位修得と理解度確認テストの合格(60点以上)で授与される修了証は就職活動に有利となる場合もあるため、可能な限り履修してもらいたい。</p> <p>なお、開講は土曜日のみとし、1日あたり4コマの集中講義(計2日)とする。前半(第1～4回)講義日と後半(第5～8回)講義日があるので、注意すること。それぞれ3日ずつ開講するので、2週連続でなくとも前半と後半で都合のいい日に受講して構わない。</p> <p>前半(第1～4回)講義日 後半(第5～8回)講義日 10月8日(土)3～10時限 10月15日(土)3～10時限 11月12日(土)3～10時限 11月26日(土)3～10時限 12月10日(土)3～10時限 12月17日(土)3～10時限</p>					
教科書	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	1.	『-』	-	-	-	-
参考書	No	書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN
	1.	『一般情報教育』	情報処理学会	オーム社	2019年	4274225956

成績評価基準	S (90点以上)	A (80点以上90点未満)	B (70点以上80点未満)	C (60点以上70点未満)	F (60点未満)	
	「数理・データサイエンス・AI」の基礎知識の理解について、十分に達成し、傑出した水準に達している。	「数理・データサイエンス・AI」の基礎知識の理解度が優れている。	「数理・データサイエンス・AI」の基礎知識の理解度が良好である。	「数理・データサイエンス・AI」の最低限の基礎知識を理解している。	「数理・データサイエンス・AI」の最低限の基礎知識を理解していないので単位が認定されない。	
成績評価の方法	第4回講義後の小テストと最終講義試験の合計で判断する					
成績評価割合 (%)	定期試験(期末試験)	授業内試験等	宿題・授業外レポート	授業態度・授業への参加度	受講者の発表(プレゼン)	教員独自項目※
	0	100	0	0	0	0
※成績評価割合の教員独自項目						
実務経験のある教員等による授業科目						
備考	授業方式:原則対面で実施する					

(4) 情報処理科目

「情報処理入門Ⅰ」と「情報処理入門Ⅱ」があります。

「情報処理入門Ⅰ」の第1回目の授業で、学内ネットワークの利用方法やオンライン授業の受講方法について説明します。履修登録の有無を問わず、この第1回目の授業は、必ず出席してください。

「情報処理入門Ⅰ」では、原則として学部別クラス編成で、ICTの活用が当然となっている現代社会で活躍するための基礎知識として、情報とコミュニケーション、情報ネットワーク、情報システム、情報セキュリティ、情報倫理、数理、データサイエンス、AIなどについて体系的に学びます。

「情報処理入門Ⅱ」では、「情報処理入門Ⅰ」の発展編として、符号化やデータ圧縮などの情報理論、ハードウェアやOSなどコンピュータの動作の仕組み、データ通信の仕組み、データ構造とアルゴリズムなどを学びます。

「情報基礎」では、社会や企業経営において情報がどのように活用されているのか、情報技術の基礎から情報マネジメントや情報戦略などを講義で学びます。国家試験のITパスポート試験の合格を目指している学生は是非受講してください。

教員免許状取得のためには、「情報処理入門Ⅰ」または「情報処理入門Ⅱ」のいずれか1科目（2単位）が必修となります（理学部化学生物環境学科のみ「環境科学基礎プログラミング演習」（理学部専門科目）選択可能）。「情報基礎」は教員免許上取得対象外科目ですので注意してください。

情報処理科目の履修

「情報処理入門Ⅰ」（前期）

■ 学部別にクラスが編成されていますので、できるだけ所属学部のクラスで受講してください。

*は非常勤講師

クラス	対象	科目ナンバリングコード	氏名	曜日	時限	教室
(A)	理学部	0114001E1	竹中 章勝*	火	7・8	確認 シラバスにて 教室を
(B)	理学部・工学部	0114002E1	竹中 章勝*	水	7・8	
(C)	文学部・工学部	0114003E1	新出 尚之	水	1・2	
(D)	文学部・工学部	0114004E1	鴨 浩靖	木	7・8	
(E)	生活環境学部	0114005E1	竹中 章勝*	火	5・6	
(F)	生活環境学部	0114006E1	高田 雅美	金	5・6	

「情報処理入門Ⅱ」（後期）

■ 原則、情報処理入門Ⅰの既履修者を対象としています。受講希望者は履修登録期間内に履修登録してください。

対象	科目ナンバリングコード	氏名	曜日	時限	教室
原則、情報処理入門Ⅰの既履修者	0114007E2	城 和貴	木	3・4	同上

「情報基礎」（後期）

■ 受講に必要な条件はありません。受講希望者は履修登録期間内に履修登録してください。

対象	科目ナンバリングコード	氏名	曜日	時限	教室
全学1回生以上（条件は無し）	0114008E1	駒谷 昇一	水	3・4	同上

★履修に関する相談、問い合わせは、各学科・専攻の教務担当教員まで。



認定期限:令和9年3月31日まで

令和4年度後期新設科目『数理・データサイエンス・AI』 (集中講義)について

内閣府の『AI 戦略 2019』にあるように、デジタル社会での読み・書き・そろばんである『数理・データサイエンス・AI』に関する教育が求められています。大量のデータから意味のある情報を見つけ出し、企業のビジネス戦略に活用するデータサイエンスへのニーズが高まってきており、そのような教育を受けた学生を積極的に採用する企業が増えてきています。この社会のニーズに応えるため、本学でも、文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」に対応する数理・データサイエンス・AI 教育プログラムを既に実施しており、令和4年8月に文部科学省の認定を得ました。

令和3年度から情報処理入門 I に、当該教育プログラムの内容を盛り込み、単位取得および理解度確認テストで 60 点以上の学生に対し、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」の修了証を授与しております。しかし、令和 2 年度までに情報処理入門 I を履修した 3 回生以上は、対象とならないため、今年度 後期に、新たに「数理・データサイエンス・AI」の授業(1 単位)を開設し、単位取得者に「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」の修了証を授与いたします。また、この授業科目は、高年次教養科目の1つとなるため、高年次教養科目(必修)の単位を充足させることもできます。

講義は、8 コマで行われ、前半 4 コマ、後半 4 コマを土曜日集中講義で実施します。人数の偏りを防ぐため、主な対象学部を設定していますので、なるべく対象学部の回に出席してください。もし都合がつかない場合、前半後半それぞれ所属学部でない回に出席することは可能です。

対象学生

文学部・理学部・生活環境学部所属 3回生以上

講義の日程

主な対象学生	前半	後半
文学部	10月8日(土)10:40~17:50	10月15日(土)10:40~17:50
理学部	11月12日(土)10:40~17:50	11月26日(土)10:40~17:50
生活環境学部	12月10日(土)10:40~17:50	12月17日(土)10:40~17:50

教室は全て、G 棟2階 G201 教室の予定です。

以上

参考情報

本学の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」の Web ページ

<http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/education/aidatascience/aidatascience.html>

文部科学省の Web ページ

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/suuri_datascience_ai/00002.htm

数理・データサイエンス・AI教育プログラム —奈良女子大学での取り組み—

◆令和2年度(2020年度)

『数理・データサイエンス・AI』の全学での教育実施方針を決定
教育計画室**IT教育部門**が主体となりプログラムの構築

・**全学教育科目(情報処理入門Ⅰ)**の一部に、『数理・データサイエンス・AI』の授業内容を盛り込み、シラバスを変更。

・**統一の教材を作成**し、各授業担当者にプログラム教育を依頼。

◆令和3年度(2021年度)

・数理・データサイエンス・AI教育**プログラム実施要項**施行

・数理・データサイエンス・AI教育プログラムの**Webページ**開設

・前期「情報処理入門Ⅰ」全6クラスを開講し、履修者に対し教育内容にかかる**理解度確認テスト**を実施

・テスト合格者を教育プログラム修了者として、271名に**修了証**を発行。

◆令和4年度(2022年度)

・「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」**認定**

・**新たなプログラム構成科目**「数理・データサイエンス・AI」新設

・前期「情報処理入門Ⅰ」、後期「数理・データサイエンス・AI」を開講し、プログラム修了者として、346名に修了証を発行。

